柏崎地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

『当たり前を支える税金』

柏崎市立第一中学校　三年　諸橋　柊也

私は今まで、税金について深く考えたことがなかった。買い物をしたときに消費税を払うくらいで、「税金は大人が払うもの」というイメージしかなかった。しかし、税金について調べたり、身近な生活を考えたりしてみると、私たちの毎日は税金によって支えられていることに気づいた。

私たちが毎日通っている学校にも、税金が使われている。教室や廊下、体育館などの施設が整えられているのも、教科書を使って勉強できるのも、税金が関係している。私は今まで、学校で勉強できることを当たり前だと思っていた。でも、当たり前のように使っているものの中にも、たくさんの人が納めた税金が使われていると知り、少し見方が変わった。また、道路や信号機、公園などにも税金が使われている。もし道路が壊れていても直されなかったり、もし信号機がなかったりしたら私たちは安心して生活することができないだろう。救急車や消防車が必要なときに来てくれることも、私たちの安全を守るために大切なことである。

私は以前、税金は「取られるお金」という印象を持っていた。消費税が高いと、買い物をしたときに少し損をしたような気持ちになることもある。しかし、税金がなくなったらどうなるのかを考えてみると、見え方が変わってくる。学校の設備を整えることや、道路を直すこと、ごみを集めて処理することなど、生活に必要なことをすべて自分たちだけのお金で行うのは難しい。

だから税金は、誰か一人のためだけに使われるものではなく、自身や周りの人が直接助けられていると感じなくても、いつか自分や家族が助けられることもあると思う。反対に、自分が納めた税金が、知らない誰かの生活を支えることもある。

この作文を通して、税金について考えて、私は「税金はみんなで生活を支えるためのお金」なのだと思った。これから大人になって税金を納めるようになったとき、ただお金を取られていると思うのではなく、そのお金がどこで使われているのかにも関心を持ちたい。

そして今の私にできることは、税金によって支えられているものを無駄にしないことだと思う。学校や道路、公園などを大切に使い、当たり前にある生活を当たり前だと思わないようにしたい。税金が支えているものの大切さを忘れず、これからの生活を過ごしていきたい。